

第3学年*組 学級活動(2) 指導案

指導者 ** **
R 6 研修センター長期研修

1 題材 「相手の気持ちを大切にしながら、自分の考えを伝えよう」
学級活動(2) イ よりよい人間関係の形成

2 題材について

(1) 児童の実態

本校第3学年*組の児童に対して、学級活動に関する実態調査(令和6年*月*日実施、第3学年*組*人)を行った。「相手と考えが違う時も、相手の考えを大切にしているか」という調査に肯定的に回答した児童は*%であった。

(2) 題材設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領解説特別活動編第1節学級活動2内容(2)イ「よりよい人間関係の形成」を受け設定している。これまでの他者との関わり方を振り返り、相手の気持ちを大切にしながら自分の気持ちを伝える関わり方について話し合ったことを意識して実践し、よりよい人間関係を形成する資質・能力を高めていきたい。

3 第3学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
人間関係をよりよく構築していく中で、相手の気持ちを大切にしながら自分の気持ちを伝えることを理解している。	自分と違う立場にある多様な他者と、互いを認め合いながら、進んでコミュニケーションを図ろうとしている。	多様な他者の価値観や個性を受け入れ、よりよい人間関係を形成しようとしている。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
アンケートに答える。	学期のはじめに立てた目標をもとに、他者への関わり方について振り返ることができるようにする。	◎アンケートに回答し、これまでの生活を振り返り、よかった点や改善点について、考えている。 【思考・判断・表現】 〈アンケート〉

5 本時の展開

(1) 目指す児童の姿

- 相手の気持ちを大切にしながら自分の気持ちを伝える関わり方について、これから意識していきたいことを考えようとしている。

(2) 本時

	児童の活動	◎目指す児童の姿 ・指導上の留意点 【観点】〈評価方法〉
導 入	1 問題場面を把握する。 【事例シート】 ある学校のお話です。登場するのは、サメ、カメ、テディベア、キツネ、フクロウです。昼休みにみんなで遊ぶことになりました。おにごっこかドッジボールをするかでもめています。ウサギさんは、おにごっこがしたいと思っています。他の動物たちはドッジボールがしたいと思っています。	・事前アンケートの結果や対立場面をモデル化した図を提示し、問題場面を自分事として捉えることができるようにする。 ・それぞれに自分の意見があり、対立することは当たり前であることを伝える。
	2 本時の学習課題を設定する。 相手と意見がちがったとき、どんな伝え方をしたらいいかな？	・身近な話題を事例として取り上げ、課題意識を高められるようにする。

展開	<p>3 4つのタイプのコミュニケーションの仕方について話し合う。</p> <p>【4つのタイプのとくちょう】</p> <p>○サメ 力や言葉で、自分の思い通りにしようとする。人の意見は聞かない。</p> <p>○カメ こわがりなので何も言わない。自分のこうらに入ってしまう。</p> <p>○テディベア 人の気持ちがよく分かるので、自分の意見を言わないで、相手の意見にしたがう。</p> <p>○キツネ どっちつかず。その場の様子でたい度をかえる。</p> <p>T：サメならどのように答えるかな？ C：ふざけんなよ！ドッジボールするに決まってるんだろ！ T：相手はどんな気持ちになりますか？ C：自分勝手にひどい！ T：自分と相手、それぞれプラスな気持ちですか？マイナスな気持ちですか？ C：自分はプラスだけど、相手はマイナスです。 C：あれ？ 自分も相手もプラスになる動物がないよ？</p> <p>4 自身の言動を振り返り、これから大切にしたい関わり方について考える。 T：どんな伝え方が自分も相手もプラスになりますか？ C：自分の気持ちをだけを伝えようとするのではなく、相手の気持ちも考えることが大切だと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャラクター説明カードを基にして、ペアや近くの児童同士で話し合い、それぞれのタイプの答え方について具体的に考えることができるようにする。 児童から出された答え方を表にまとめ、視覚的に理解しやすいようにする。 必要に応じて、「サメは自分のやりたいことがはっきりしていますね。でも、伝え方が怖いかもしれません。」のように、それぞれの得意なことや苦手なことについて補足しながら、解説する。 <p>・児童はウサギ役、教員はその他の動物役になり、ロールプレイを行う。それぞれのタイプの答え方をされると、どのような気持ちになるのかについて想像できるようにする。</p> <p>・4つのタイプについて話し合ったことをもとに、どのようなことを大切にしてお互いに関わっていきたいか、考えることができるようにする。</p> <p>◎相手の気持ちを大切にしながら自分の気持ちを伝える関わり方について、これから意識していきたいことを考えようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】〈ワークシート〉</p>
	<p>5 大切にしたい関わり方について確認する。</p> <p>6 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各自が考えた大切にしたい関わり方について、グループ内で伝え合い、実践への意識が高まるようにする。 振り返りシートをもとに、本時の学習を振り返ることができるようにする。

6 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】 〈評価方法〉
意見が対立したときの場面について、伝え方のロールプレイを行う。	デモンストレーションを行い、活動のイメージがもてるようにする。	◎実践の振り返りをもとに他者への関わり方でよかった点や新たな課題に気づき、よりよい人間関係を形成しようとしている。 【主体的態度】 〈振り返りシート〉
実践を振り返り、他者への関わり方でよかった点に気づき、新たな課題について考える。	意識して取り組んでいる様子を観察し、肯定的にフィードバックできるようにする。	

参考文献：本田恵子「キレやすい子へのソーシャルスキル教育 教室でできるワーク集と実践例」
ほんの森出版 2007年